



森のなかま

2010年 10月号

NO.30 (継続175)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

水源の森林づくり街頭キャンペーン 9/25(土)～26(日)

秦野たばこ祭と初のタイアップ出展



緑の募金・ガラガラコーナー

9月25、26日の両日、水源の森林づくり街頭キャンペーンとして、秦野市主催の秦野たばこ祭に初参加をしました。秦野市のたばこ祭の歴史は古く、昭和23年10月の第1回にさかのぼります。以来63年、さまざまな変遷を経て現在に至っていますがその歴史を振り返ると・・・第1回が昭和23年。地場産業のたばこ耕作者の慰労会と秦野の町村の復興を願う強い意気込みのもとで開始されたと言われています。昭和30年には2町2村合併により秦野市誕生。昭和32年第10回には祭の主体が秦野市を中心とする現在の「秦野たばこ祭実行委員会」に変わり、その後のたばこ栽培の終焉という歴史の変遷を経ながら

現在は市民参加型祭として、近隣からの来訪者数30～40万人を誇る大きなお祭として引き継がれてきました。

今回「県民参加の森林づくり実行委員会」として、伝統ある祭に水源の森林づくり街頭キャンペーンとして初参加できたのも全国植樹祭開催地秦野市とのご縁かと思えます。

準備の段階で台風12号による土砂崩れの影響をまともに受け、恒例の丸太切り、水源涵養実験の資材を搬送できなくなるというハプニングもありました。とはいえ開催日当日は台風の時折の風は残ったものの、25日は晴れ、26日はコーナー終了までは天候に左右されることなく、来店者600名以上を数え、盛り上がりのなかで終了することができました。(記・写真 広報部 村井)



水を育む森林の話



緑の募金で1等賞が当たったよ。



どんぐりトトロに夢中!

～やどりき水源林での森林癒し体験*研修を実施して～

森林癒し部会からの報告 運営委員 宮下 修一

《森林癒し体験のプログラム》

「森林浴や森林癒し」が近年話題となる中、森林癒し部会の活動の一環として、平成22年8月29日と9月12日の両日で、会員を対象に「森林癒し体験プログラム」をやどりき水源林で実施した。参加人員は8月29日が13名、9月12日も13名と、森林癒し部会のメンバーを含め両日で26名もの多くの参加者での森林癒し体験となった。

癒し体験の全体プログラムは、**五感で森を感じる、樹冠の揺らぎ、沢のせせらぎの音、森林での呼吸法、森林での瞑想**。途中、森の色、木漏れ日、揺らぐ森の小径、木の葉の音、樹木の香り、土の感触、樹皮の肌触り、谷川の感触、頬をなでる風などが、五感を通して心と体に優しく問いかけてくれた。

《五感で森を感じる》

オリエンテーションの後、全員がベンチや土の上に寝そべり空を見る。そして目を閉じる。枝の揺れや空の青と雲の動きが不思議な世界に自分を連れて行ってくる。

森の音や川のせせらぎの音、蝉の鳴き声、木の葉の揺れが醸し出す音。五感を通して普段あまり気がつかない世界を感じさせてくれた。遠くの山を見ると、緑の色も様々な色があることに気がつく。次からのプログラムは、2班に分けて、なるべく班が一緒にならないように体験場所にそれぞれの班が向かった。

《樹冠の揺らぎ》

スギの林に差し込む木漏れ日は、幻想的な世界を描いてくれる。そんな林の中で道に寝そべり空を見上げる。そこにはスギの樹冠が不思議な形を作っていた。スギ林にはフィトンチッドが充満し、1/fの揺らぎが人の体のリズムに合うように、心身ともに癒される中で、じつと樹冠を見つめる。不思議な世界。体を横にするとリラックスでき、心も穏やかになる。揺れている木とそうでない木。枝の動きが不思議に感じられ、その揺れは海の中の海藻の様。あるいは土の中で木の根が張っているような世界にも見えた。

《沢のせせらぎの音》

さらに奥に進むとせせらぎの音が聞こえてくる。暑さを感じていたちょうどその時、せせらぎの音、沢の水の冷たさと風の運ぶさわやかさは何とも言えない癒しの効果。沢に立つと風を感じる。橋の上に立った時と少し離れたところでは風の流れが微妙に違う。

《森林での呼吸法》

次のスポットでは樹林気功を試みた。少し開けた展望がきくスギ林の中。明るい日が差し込みフィトンチッドに包まれながら大自然の気、地球の気、宇宙の気、人智を超えた偉大なる存在との交流。「昇降開合」はすべての形に通じる気功法。木により添い木から気をもらう。自然との融合を試みてみた。



～体験者からいただいたお手紙～

菊地昭子

寄の森の中、舗装された道にシートを敷いて横になる。真っ直ぐに見上げると、花火のように広がった枝があった。いままで私は、斜めと横からしか見ていなかったのだ、初めて見る森だった。すると草や木の香りを強く感じた。横になっただけなのに・・・新しい事を感じた自分が新鮮だった・・・ゆったりとした時間が流れる。今度はどんなことを感じさせてくれるのだろうか？



《森林での瞑想》

たかなしの森は谷川の横にあるフサザクラが林立する溪畔林。この中で瞑想を体験してみた。あたりはマイナスイオンが充満し、1/fの揺らぎを感じるどころ。

瞑想は何か集中すること。自分の好きなどころで、自分のあったやり方で瞑想する。何かに集中し、深い深い意識の世界に入り、しばらく現実の世界から離れてみた。



《新たな試みと次の展開に向けて》

9月12日には、8月29日にいただいた意見をもとに、ささやかながらハーブティのもてなしを試みてみた。おおむね好評だったので、さらに研究を深めたい。

両日とも午後は、参加者全員で瞑想を試みるスポットで癒し体験を深めるためには、どのようにすればよいかについて、いろいろ建設的な意見をいただいた。今後の活動に是非生かしたい。

《参加者からのアンケート結果》

□森林癒し体験参加の動機：森林での癒しを体験したい、森林での癒しに興味があった、に多くの参加者の意見が集約された。

□癒しが感じられた体験：樹冠の揺らぎ、せせらぎの音、瞑想、呼吸法の順に癒し体験を感じたようである。

□森林癒しを体験して、気分は良くなった、とても良くなったと感じていただいた。

□今回設定したコースやガイドにはほぼ全員が満足いただけただ様である。さらに、今後このようなイベントが開催されたら参加するという希望をいただいた。その他、具体的な意見もいくつか頂いた。

皆様の貴重なご意見を今後の活動に反映させていきたいと思っております。ありがとうございました。

森林探訪 “湯坂路で秋を満喫” 9/11

自然観察部会・部会長 野田重雄

小田原からのバスも順調に芦之湯につき、由緒ある東光庵でオリエンテーションを簡単に済ませ観察を始める。出発前のアイスブレイキングに少々時間がかかり心配するも朝からインストラクターの説明に熱が入る。

草花や樹木の説明に加え、人工林と天然林の違い、常緑針葉樹林と落葉広葉樹林の違いなど森の現状は、森の中の涼しさは？土の柔らかさは？その効果はなど森林と水など森林の効果・役目など質問を交えながら説明が続く。今回の森林探訪は、水源環境保全・再生市民事業補助金を受けて実施したため、森についての観察・説明に熱が入る。

秋の草花で近頃見られなくなったオミナエシを堪能し、ススキ、ハギ、クズなど秋の七草をはじめ、シラヤマギク、ノコンギク、ユウガギク、サワギク、ヤマホトトギス、キンミズヒキ、タムラソウ、ツリガネニンジン、ツルニンジンなどなど楽しむことができました。更に草花に群がる蝶や昆虫、種の散布の工夫も観察の対象となりました。

猛暑のためか、81名の応募にたいし、参加者は52名に減少してしまいましたが、秋の草花に恵まれた楽しい森林探訪となりました。ところで、今回は二人の参加者の靴底が出発前にはがれていることが判明した。経験者の応急処置により事なきを得ましたが、高い靴だからといって大事にしまっておくと、糊が劣化してしまいます。適当に利用しながら靴の調子をチェックしましょう。

応援していただきましたインストラクターの方々ありがとうございました。

参加インストラクター：友谷①、鈴木③、久保⑧、黒澤⑧、松本⑧、野田⑧、小林⑨、女川⑨、内野⑨、小林⑩、海野⑩、杉崎⑩、松浦⑩、松永⑩、上宮田⑩、

私の認識

野鳥その81

高橋 恒通

スズメ目ホオジロ科の野鳥の我国で観察可能な種は概ねご案内しました。今回は私の独断と偏見による認識で選んだホオジロ科の野鳥のご案内をいたします。

まずは冬鳥のツメナガホオジロ（漢和名：爪長頬白、英名：Lapland Bunting、体長L=16cm）です。

以前に説明したかも知れませんが、鳥の脚には指が4本あります。前に3本、後に1本、これを前指（ゼンシ）、後指（コウシ）と言い番号がつけます。

後指を第一趾（シ）、前指の内指を第二趾、中指を第三趾、外指を第四趾と言います。

ツメナガホオジロの和名の根拠は、第一趾の爪が大変に長いからだそうです。図鑑で見ると長いのが判りますが、私自身この野鳥は前稿のユキホオジロと同じく未だ生きた実物を観てません。加えて英名の“ラップランド”はご承知の通りスカンジナビア半島北部、スウェーデン領、フィンランド領を中心にロシア



ツメナガホオジロ

領コラ半島辺りの領域を言うそうですが、いずれにしても北緯66度辺りの北極圏で繁殖、棲息するホオジロだからです。但し、雪と氷に閉ざされた期間が長いので、繁殖は短い夏の間だけで、厳しい冬の間は南に下

った中緯度帯で越冬します。

上記の棲息域は前稿のユキホオジロのそれとほぼ重なります。ツメナガホオジロが我国で目撃される場合、ユキホオジロの群れの中に単独で混じっている事が間々あるそうです。

ツメナガホオジロの体色は、成鳥冬羽♂の胸前が濁白色地に黒斑が混じった帯状模様。そして耳羽後方に太目の黒斑（但し個体差で黒斑の不明瞭なものもある）があります。逆に成鳥♀にはこれがありません。次が♂♀共に脚（業界用語で跗蹠<フシユ>）は黒色ですし指4本共に黒色ですので同定の大切なポイントです。因みに種の数の多いホオジロ科の野鳥の中で黒色の脚の持ち主はツメナガホオジロとユキホオジロだけです。他のホオジロ科の仲間の脚の色は図鑑で見る限り殆ど肉色です。

♂♀共に背面は黒褐色の斑の入った茶褐色で、三列風切が茶色です。

そしてツメナガホオジロは棲息環境も亦ユキホオジロと同じく海岸や平地の草地、埋立地など裸地でハマニンニクの種子など採食するそうです。

我国では主に北海道や日本海に面した雪のある海岸などで観察されています。

私だったら先ずユキホオジロの群れを見つけてその中に混じっている茶色っぽい個体を探し、脚が黒いかどうかに着目しツメナガホオジロと判断します。

因みにツメナガホオジロの成鳥夏羽の♂（我国では先ず見られないと思います）は頭頂、頬、喉下が黒色となり、目の後方に白色の太目の線が側頸から胸前と黒色部を囲む如く顕著に出ます。そして後頸が茶色になります。

若し夏季にアメリカやカナダに行く機会がありましたら、上記の体色で黒い脚の野鳥が地上に居たらツメナガホオジロだと思って間違い無いと私は認識しております。

これは私の推察ですが、冬季に五大湖辺りから米国東部ニューイングランド地方では、我国の北海道よりももっと密度濃くツメナガホオジロとユキホオジロが観察できるのではないのでしょうか、・・・・・・。

<参考資料>

- ・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄
山と溪谷社
- ・フィールドガイド 日本の野鳥、野鳥ブックス②
高野伸二著、（財）日本野鳥の会
- ・鳥 630図鑑、（財）日本鳥類保護連盟
- ・ツメナガホオジロの絵 ~春~

本の紹介

水と緑と土（改版）

富山 和子著

堤 洋 <8期>

伝統を捨てた社会の行方

この本は1973年（昭和48年）出版ですが、その意図するところは現在でも新鮮であり、当時このような本が出版されていたとは驚きとその慧眼に只々敬服するのみです。

現在の社会が忘れてるのは、土から得たものは土に返すという最も基本的な原則であろう。しかもこの原則ほどきびしく困難な課題もない。それは生産物の量と質とをその土地に拘束させ、廃棄物の量と質をもその土地に拘束させる。それは「時間」に対する考え方の問題でもある・・・・・・

本書の構成は、十章から構成されており水争い、水を治める水の利用等を含め文明論や為政者による



治水等が表題にある「水」、「緑」、「土」に視点を置いてまとめられています。日本の転換点として明治維新以降の近代化に名を借りた天然資源収奪の歴史と水辺から人間を遠ざけた結果の荒廃について、国土改造論華やかなりし頃に現在を予見した著者の慧眼に頭が下がります。

改版に寄せての文中に「水のないところはどこかといえば、砂漠か裸の岩山であり、そこには緑も土もない。では緑のないところはどこかといえば、やはり砂漠や裸の岩山でそこには水も土もない。土のないところは、といっても同じであり、三者はそういう関係にある。それゆえ「緑を失った文明は亡びる」という言葉は「水を失った文明は亡びる」といってもよいのであり、正確には「土壌の生産力を失った文明は亡びる」というべきなのである」と書かれております

この本の出版された時期に社会に出、日本列島改造の最中に環境の分野で過ごしてきた私(我々世代)にとって、このような観点で過ぎし日を振り返ってみることも「自然との関わり」を考えるには最良な本であり、若い世代の方々には、「ダム不要論」や「緑の保全」、突き詰めれば「生物多様性」にまで思い至ります(中公新書 760円+税)

奪われる日本の森林

外資が水資源を狙っている

平野秀樹、安田嘉憲 著

この本の主題は本の副題にあるように水資源の採取を目的に日本の森林を買収する事例が増えている事に危惧の念を示しています。

国策として貿易の自由化や資本の海外交流の促進を標榜しており、それに沿ったものであり、懸念を示すには当たらないという意見も多いでしょう。しかし、日本の現行法制度の問題や施策の方向性を考えると、安穏と出来るものではありません。

まず、民法上「土地所有は地下から上空まで総てが含まれる」となっており、土地所有者がどのように、また、誰に売り渡しても制限を受けないことが基本であるゆえ、保安林の一部や特殊な事例を除いて売買は事実上無制限であります。同時に、山林の土地価格は捨値同然でもあり、立木価格も伐出費用も出ない安さゆえ、海外の資本家が目をつけるには当然であり、また、井戸を掘って



地下水を汲み上げても、概ね無制限なので「美味しい水」を求めて海外からの参入は納得できます。

一方、山林は国有林や大学の演習林を除き都道府県による管理で森林簿と森林計画図に示された地番図で行われていますが、簿上の一筆の内容と計画図の一筆が整合しているかと言えばお寒い限りであります。

このような内容を前半は平野秀樹氏、後半を安田喜徳氏がまとめています。

林業の振興や緑化、防災等日頃見聞きするマスコミ等が喧伝するものについては大衆の興味も引いているであろうが、法制度の欠陥や行政が結果的に隠しこんでいる地域森林計画執行の基礎となる森林簿や地番図の欠陥等を明らかにしています。

ただ、著者は学者であり研究者であるため現実的な解決策までは踏み込んでいません。日本の側の為政者に警告を発し、問題提起には格好の材料と思います

(新潮社 1400円+税)

活動短信

8/7~8/29

「里山ボランティアフォローアップ講座」

- 日 8月7日(土)
- 場 明治大学生田校舎
- 参 大学生20名(男性11名・女性9名)
- スタッフ 5名(大学職員)
- イ L清水⑧、久保⑧、松本⑧、浦野⑧、

今回は、麻生区 健康の森での里山ボランティア講座のフォローアップ、しかも、自分たちのキャンパスでの活動ということもあって学生達には一層真剣さが増しているようであった。

先ず事前打ち合わせで担当教授から、作業は午前中にアズマネザサの刈り取り、小川周辺の整理に集中し、午後には学内の緑のエリアをグループごとに観察する中で明治大学生田キャンパスの植生管理について各インストラクターの活動体験をもとに話し合いをし学生自身が行おうとする今後の生田キャンパスの植生管理についての考えの参考にしたいとの意図を担当教授から説明を聞き、9:30 準備運動を十分に行い、指導担当とグルーピング、活動場所の特徴と手順を確認して作業に入った。11:40 現地作業を終了して集合場所に移動。昼食時には、有志が準備した流しそうめんに満足し自然発生的に竹細工などで遊び、午後はグループごとのキャンパス観察と植生管理について現場での質疑応答を行い、用具の管理(鎌研ぎ作業)をし、教室での参加者全員の振り返りをして終了した。参加学生の今後の活動を期待してキャンパスを後にした。(記 8期 清水)

水源の森づくり体験

日 8月11日(水) 18日(水) 晴れ
場 やどりき水源林
参 一般募集した親子 90名
イ 11日 L野田⑧、高崎④、宮本④、村井⑨、
 18日 L野田⑧、増子③、村井⑨、酒井⑩、
 (財)神奈川県企業庁サービス協会主催の水・森
 エネルギー体験講座の一環「水源林の森林づくり体験」が親子90名を対象としてやどりき水源林で11日、18日に分かれて行われた。

やどりきまでのバスの中では、協会の挨拶、仕事の説明に始まりリーダーの森の働きの話で自然観察の予習を行う。やどりき水源林ではBコースで、緑のダムと言われる森林の話を中心に自然観察を行う。昼食後は寄沢での水遊びに興じびしょぬれになり、更にはやどりき自然休暇村に移動しマスのつかみ取りなど楽しい一日でした。

家ではあまり話をしない子供が活発に質問をし、お母さんをビックリさせたり、同じ学年の子供同士がすっかり打ち解けて虫探しをしたり、同じ幼稚園に通園していた親子さんが再会したりで知らない人同士がお互いに打ち解け楽しく過ごされた一日でした。

両日とも天候に恵まれたというよりも、猛暑の中での自然観察会でしたが、幸いにも熱中症には恵まれなかったものの、ヤマビルの歓迎は受けませんでした。(記 8期 野田)

パートナー林 間伐体験

日 8月18日(水) 10時~13時
場 やどりき水源林・三菱重工パートナー林
参 三菱重工(株)汎用機特車事業本部・社員41名
県 自環保・水源の森推進課 内田
イ L坂齋⑦、高橋③、山崎⑦、大澤⑩、

三菱重工(株)のCSR行動指針である①地球との絆(緑あふれる地球を環境技術と環境意識で守ります)②社会との絆(積極的な社会参画と、誠実な行動により、社会との信頼関係を築きます)③次世代への架け橋(夢を実現する技術で、次世代を担う人の育成に貢献します)に基づき、「地球との絆」の行動の一つとして実施された。三菱重工の平成22年4月入社社員(18歳32名)の研修(10月まで)の一つとして実施。「かながわ水源の森林づくり事業について」(内田)、「水源林の機能について」(高橋)のレクチャーのあと四班に分かれパートナー林内のスギ・ヒノキの間伐を実施。

傾斜地で足元が悪く、全員初めての体験であったが、インストラクターの指導の下、各班2~3本の間伐を行った。作業中は若者らしく元気一杯の行動であった。間伐作業終了後は河原で昼食を取りながら川遊び。この川遊びも元気一杯。ひよっとしたら一番楽しかったのは川遊びかもしれない。

作業参加者全員が半袖・長ズボン、服装などについて事前に説明されていなかったのではないかと思います。(記 7期 坂齋)

パートナー林 クラフトワーク&水生生物の観察

日 8月28日(土) 晴れ 10時~15時
場 やどりき水源林
参 日揮(株)社員とその家族
 (大人10名・子供6名)

イ 佐藤①、宮本④、
 子供たちの夏休みの思い出づくりという意図が含まれる活動で、午前中は主に宮本が担当して水生生物の採集と観察、午後は佐藤が担当してクラフトワークで楽しんでいただいた。

水生生物の観察は寄沢と水棚沢が合流する広場付近で行った。日射しが強く暑い天候だったが、水温が20℃余と冷涼な清流の中での「生きもの探し」は大人、子供を問わず楽しかったようである。採集した生きものの観察では採集生物チェック表(イラスト画)を予め配布して、採集生物をピンセットでピックアップしながらイラスト画との相対を子供たちに答えてもらった。採集されたプラナリアの実体顕微鏡での観察はとくに興味深かったようである。

午後からは活動場所を集会棟の前に移し、どんぐりトトロ、バードコール、コースターづくりなどクラフトワークを行った。汗を流しながらの作業だったが、それぞれ自分の出来栄に満足していた。なお、クラフトワークにあたっては資材提供等武本氏(7期)の協力を得た。

多彩な活動の一日であったが、参加者の大人は普段多忙の現役であり、「家族・親子の絆」づくりに多少でも貢献できたとすれば幸甚である。

(記 4期 宮本)

水生生物観察とかかし作り

日 8月22日(日) 晴れ
場 やどりき水源林
参 鶴岡八幡宮・林間学校・鶴の子会149名
県 自環保・水源の森推進課 内田
イ L森本⑤、渡辺③、高橋③、高崎④、相馬⑤、
 横山⑤、伊藤⑦、山崎⑦、渡部⑦、中島⑨、
 内野⑨、高橋⑨、村井⑨、金森⑩、一重⑩、

道路渋滞により時間が押す展開とはなったが、所期の目的(案山子作り、水生生物観察)は、無事に達成出来た。なお、活動前に、高橋恒③の森林講話も設定した。

<案山子作り>

かかしの服選びに少し時間がかかったので、イメージ図の事前依頼が必要かもしれない。インストール作成手順書も整備すべきか。間伐材を利用したこのかかしは、埼玉県・三ヶ尻八幡神社の神領田に設置・活用される。

<水生生物観察>

上流で河床をかき回すため、一部、濁りが出る局面もあったが、カジカやヤマメまでの観察が出来る班もあり、きれいな水を育む水源林の役割を、皆が、再認識出来たようだ。

終礼で、かかしという言葉の由來說明と唱歌「かかし」斉唱のあと、村井ガラスでお開きとなった。

(記 5期 森本)

森林づくり体験講座D「水生生物観察と森林散策」

日 8月26日(木) 晴れ 9時半～15時半
場 やどりき水源林
参 30名
財 鳥海、古館 **看** 小林
イ L山崎⑦、竹島③、高崎④、宮本④、村井⑨、
 諏訪部⑨、宮向井⑨、時田⑩、
研 上野⑩、波多野⑩、

晴天に恵まれ、ラジオ体操の後、大小の網やトレーを持ち、班毎に決められた水域で水生生物の観察が始まりました。

カワゲラ・カゲロウ・トビゲラ・ガガンボ・ヘビトンボ・お玉じゃくし・カジカなど沢山の生き物が見つかり、大人も子供も夢中になって網を構えたり探ったり、大奮闘です。

サワガニはお腹が膨らんでいて、途中3mm位のカニの赤ちゃんが生まれる場面に遭遇し皆感激しました。プラナリアは、シャーレに移動中3コに切れましたが、すぐに皆動き出し再生能力の高さを目の当たりにしました。興味津々で顕微鏡を囲み命を感じる貴重なひと時となりました。昼食後は、Bコースの散策。聴診器で樹の鼓動を聞いたり、すっぱい葉を味わったり、ヤブニッケイの香りを嗅いだり、五感を使って森の散策を楽しみました。林道に出ると、暑い！森の中の涼しさを実感しました。振り返りでリーダーが、「神奈川の絶滅危惧種の虫は、泣き虫と弱虫・・・」には大爆笑でした。(記 10期 時田)

パートナー林 自然体験教室

日 8月28日(土) 晴れ
場 やどりき水源林
参 三菱重工業(株)社員と家族12名(園児3名)
イ L中島⑨、高橋③、横山⑤、山崎⑦、

連日の気温が30度以上の猛暑日が続く中で自然体験教室となりました。予定通りの10時からスケジュールに沿って開始。開会の挨拶後水源林についての解説、パートナー林での間伐体験作業とBコースの案内をしました。昼食後、13時半まで上流域水生生物の名前と、動作について特に注目しました。トビゲラのユーモラスなダンス、ヘビトンボのロール巻き、ガガンボ同士のからみ合い等。

沢ガニの赤ちゃん誕生の瞬間も観察することが出来て感動しました。最後に間伐材やどんぐりを使って木工工作を行い短時間ではありましたが、充実した一日でした。(記 7期 山崎)

県民参加の森林づくり

日 8月29日(日) 晴れ 8時40分～15時半
場 相模原市青野原共有林
参 一般県民 75名
地 長谷川(相模原市みどりの協会)
財 古館、永島、 **看** 青木、
イ L角田⑩、相馬⑤、富樫⑥、塩谷⑦、武者⑦、
 植松⑧、松村(俊)⑧、中島⑨、橋本⑩、
 矢澤⑩、青木⑩、 **研** 時田⑩、大塚⑩、
 大橋⑩、柳澤⑩、

応募者86人のところ75人の参加となった、連日の猛暑の影響か？現場は50年生のスギ、ヒノキの林、5班に分かれ作業を開始する。林内は笹、竹、広葉樹等がびっしりと生い茂り、又、急斜面のため作業は思うようには進まない。今日の作業は間伐、林内整理の予定であったが、午前と午後の殆どが林内整理で終わってしまった。しかし綺麗になった林内を見て参加者は満足の様子でした。

昼休みにリーダー角田さんから“テイカカズラ”について説明があり、皆さん話に聞き入っていました。参加者が蜂に刺されたが大事に至らず、怪我もなく無事終了しました。皆さん暑さでかなりお疲れの様子でした。(記 10期 青木)

青春の旅・森林ボランティア(竹伐採・竹細工)

日 8月28日(土) 晴れ 9時半～14時半
場 県立21世紀の森・内山橋付近/森林館
参 一般市民12名(中学生含む) **スタッフ** 7名
イ L渡辺③、出口④、

今回、既に行われたリーダーの事前森林ボランティア作業等の講話の引き続きの活動でありました。今日も、猛暑が体全体を覆い包まれるかの「追い討ちかな～？」のような気温でした。33℃マイクロバスと思いきや、大型観光バスが定刻どおり、内山橋に到着いたしました。

竹伐採及び竹細工に伴い、リーダーが竹細工の作品を持ってこられまして、竹伐採に行く前に作品を参考にして現場で竹材料を選定する工夫としての資料でした。さて、伐採作業ですが、比較的伐採跡が点在し作業が容易で淡々とした作業運びとなりました。作業中、スタッフが「上を見てごらん、さっきより明るくなったでしょう！」と言うと、作業で夢中であった生徒は上を見上げ「うお～！」と何人かが歓声をあげました。

怪我もなく、2時間程で作業終了でした。午後の部の竹細工は、鈴木センター長のご好意で裏庭を貸していただきまして作業開始です。(工具も)それぞれ工夫を駆使し、花器・けん玉・ぼっくり等を作り楽しい達成感の風景が観られました。リーダーの作品が好を評したかもしれません。作業の合間で聴診器を木に設置し、木が水を吸う音も聞いてもらい、子供たちの不思議そうな感激したような風景も観られました。

もの作りの課程(竹伐採～竹細工)は、子供に何か好奇心や自立心を与えてあげられるかもしれません。(記 4期 出口)

広報部からのお願い<活動短信について>

活動短信の内容は400字でまとめてください。
 ①活動日、天候、時間 ②活動場所 ③参加者人数 ④財団、自然環境保全センターは自環保、21の森はスタッフ、他、名前を明記 ⑤看護師名 ⑥リーダーを先頭に参加インストラクター名、期を忘れずに。⑦研修枠名、期

活動終了後、速やかに村井までお送り下さい。

やどりき水源林 ミニガイド

9月のトピックス



お彼岸にはいつも咲き乱れてた彼岸花、今年はかなり遅れました。

9/22 撮影

10月の水源林

実りの秋本番です。多くの果実が赤や紫などさまざまに色づきます。これは「熟したので食べて（種子を運んで）ちょうだい」の合図ともいえます。子孫を残すための巧妙な仕組みを観察しましょう。(9月号やどりき水源林ニュースより)

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)
 - 集合：水源林入口ゲート前
 - 内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。
- 参加自由、参加費無料
*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社) かながわトラスティみどり財団 TEL:045-412-2255 fax:045-412-2300
 - ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
 - E-mail:midori@ktm.or.jp
 - やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

H22年度・野生動物写真コンテスト ～23年1月10日 当日消印有効

入賞発表：H23年2月予定
応募作品：①フィルムカメラ作品は六つ切りプリント、ワイド不可。
 ②デジタルカメラ作品は六つ切り同等サイズかA4サイズとし、加工、合成処理作品は一切不可。
賞：最優秀賞・環境大臣賞1点5万円
 優秀賞3点 里地里山里海部門
 子供部門/自然公園財団理事長賞
 3万円(子供は商品券)・入選他あり
応募先：財団法人自然公園財団
 写真コンテスト係
 〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-6 ニュー西新橋ビル

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送先

<①電子配信担当>

森 義徳
 〒232-0053
 横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
 Tel/090-5433-7784 Fax/<株リコー・森宛 045-590-1910>
 Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝
 〒226-0002
 横浜市緑区東本郷6-22-1-420
 Tel/Fax: 045-476-4112
 Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖
 〒227-0038
 横浜市青葉区奈良2丁目10-5
 Tel/Fax: 045-961-6695
 Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信
 〒194-0001
 東京都町田市つくし野2-13-7
 Tel/Fax: 042-796-6011
 Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp
 原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

★東京都の緑のボランティア指導者に認定されました。活動実績などの書面審査が必要で、8日間の講習と修了試験がありました。都内で活動するリーダーなど約30名の知り合いができました。より上級として、東京都サポート・レンジャーにも挑戦します。(金森)

★10月に名古屋で国際会議が開かれるせいか、生物多様性に関する新聞記事をよく見かけます。正直のところピンとこない面もある話題ですが、もっと身近な問題として考えていかなければとも思います。(鈴木朗)

★TV 全国高校IQ選手権有り。決勝東大正解率10%と中国学者の出題文、日本人簡単に解けない超難解問題、回答、開成、灘高、出題瞬間正解を小生出す。昔勉強漢文の記憶、記憶の不可思議に酔う。昨夜の夕飯は？(鈴木松)

★「暑さ寒さも彼岸まで」本当にそうでしたね。最近では風水害も多いようです。足元に気を配り安全に活動しましょう!(森)

★毎年秋には長野の実家からブドウを送ってもらっています。今年は春の低温、夏の猛暑の影響で粒は不揃いですが甘さは上々、秋の味覚を楽しんでいます。(井出)



秦野たばこ祭なかなかでした。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

井出恒夫 (HP) 金森 巖 (別冊)

鈴木松朗 森本正信 森 義徳

鈴木 朗 上野潤二 原田智也

～ 春 ～

暑い暑い猛暑がやっと治まり、遅ればせながら秋らしくなってきました。果してこの猛暑で、秋のきのこがしっかり顔を出してくれるかちょっと心配になりますが恒例の鍋割山荘の「きのこ鍋を食べる会」を行います。

- 日時 10月16日(土) PM 5:30より (山荘には15時半までに到着)
- 参加費 一泊二食付 大人6,500円 小人4,500円(小学生以下)
- 参加申し込み 希望者は必ず予約をお願いします。
〒259-1325 神奈川県秦野市萩が丘8-33

鍋割山荘 草野延孝

Tel & Fax 0463-87-3298

ケイタイ 090-3109-3737

鍋割山荘までの登りできのこ採りをし、山荘で鑑定してもらい、食用は鍋に入れて食べます。夕方、天気が良ければ富士の頭上に陽が沈むダイヤモンド富士が望めます。(年2回 10月/2月に見れます。) M